

事例紹介 公立陶生病院 東棟

地域の基幹病院としての機能とホスピタリティの両立。



森のイメージで創造されたエントランス。天井の枝葉の間からは木漏れ日が、床には木陰のイメージが広がっている。



2Fの廊下もあたたかいグリーンの「森」が来院者をやさしく包み込む、穏やかな空間となっている。

地域に大きく広がる「里山」の姿を 病院と重ね合わせたアートワークを展開。

公立陶生病院は、愛知県の瀬戸市・尾張旭市・長久手市で組織する一部事務組合立の病院。尾張東部医療圏の中核病院として幅広い診療機能を持ち、救急医療、がん医療、周産期医療などに力を注ぎ、地域住民への充実した医療サービスを提供してきました。

2014年1月には、急性期医療部門を集約した西棟が運用を開始。救命救急センターの指定も受けました。さらに北棟の整備とともに、2018年5月から新しい東棟の運用をスタート。地域周産期母子医療センター（NICU・産婦人科病棟・分娩室）、小児病棟を配置し、それぞれの機能強化をはかりました。西棟に続き東棟でも免震構造を採用し、非常用発電機や複数系統のインフラなどによって、災害時においても病院機能が発揮できるようにしています。

また、院内の利便性と快適性向上のために、デザインを重視。不安な気持ちを少しでも和らげるように、やさしく、あたたかく、明るい空間づくりがなされています。そのテーマは、地域の病院として、大きく広がる「里山」の姿。「親しみ・誇り・安心・安全・信頼」を感じられるインテリア・アートワークを院内各所で展開しています。エントランスホール天井には木々が生き茂り、木漏れ日が輝き、床面には木陰のイメージが広がっています。



ヘリポートのある西棟（左側）と東棟（右側）。
（撮影：株式会社エスエス）



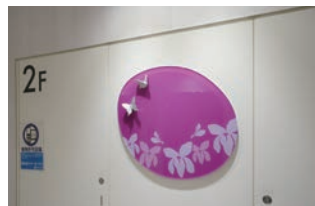
「ヒーリングパティオ」と名付けられた中庭を取り囲むようにエントランス空間が構成されている。



外来専用と病棟専用のエレベーターを分かりやすい門型のサインとカラーで明示し、誘導している。

公立陶生病院

- 竣工年月 / 2017年11月（東棟）
- 所在地 / 愛知県瀬戸市西追分町160
- 施主 / 公立陶生病院組合
- 設計 / 株式会社日本設計
- 施工 / 株式会社竹中工務店
- 延床面積 / 79,902m²（全体）
- 病床数 / 633床
- アーティスト / 先崎哲進
（accoloto）ふくだとしお十あきこ
小林且典
- アートディレクション / 株式会社アートココ
株式会社織絵



目的地や自分の居場所が分かりにくいことでストレスを感じることがないように、無意識のうちに誘導される「ウェイ・ファインディング・システム」を採用。各階にデザインモチーフとなる植物を設定し、フロアカラーを定めている。写真は2Fエレベーターホールのサインで、地域の里山に植生する「タチツボスミレ」のイメージ。

院長先生からの声

居心地のよいトイレによる「癒し」は大切です。



院長
味岡正純さん

基幹病院としての責任を果たすために、同じ場所での建て替えを実施。色調などについてはトップダウンではなく現場の意見を反映させました。「人のために尽くしたい」というスタッフたちの思いにも応える、穏やかに人を支えられる環境が創造できたと思います。床や壁の色合いと同様に、トイレも「癒し」の大きなポイント。数や使いやすさ、感染対策への配慮、そして居心地のよい空間であることはとても大切です。また、高齢の患者さんの割合が増えていますから、尿流量測定装置の付いたトイレなど検査の負荷を減らす配慮なども、今後ますます重要になってくると思います。

トイレにも彩りを持たせて
気持ちを和らげる空間を演出。

やさしく、あたたかい空間づくりはトイレにも。「病院のトイレにも彩りがあっていい」という思いから、1～4Fの共用トイレのトイレブースやライニングに、デザイン性を重視したメラミン化粧板を採用。ブースやライニングのデザインや色が引き立つように、無彩色系の床シートを導入しています。隣接する男女トイレには、同じデザインの色違いを採用。洗面コーナーには肌の色を美しく見せるLED照明が使われています。



1F外来の男性用トイレの小便器。つまずき防止のため防汚防臭陶板とフロアの段差をなくしている。



1F外来の男性用トイレの手洗器。ブースやライニングのデザインのメリハリが効いている。



1F外来の女性用トイレ。ブースは内開きで使用状況が分かりやすく、非常時は外開きにすることができる。



女性用トイレのサイン。手すりの設置位置も分かりやすく表示。



コントラストを付けて便器や手すりの視認性を高めている、外来男性用のトイレブース。デザインのモチーフは、自然に由来したものが多い。

各階のデザインモチーフ(植物)とイメージカラー

階数	デザインモチーフ	イメージカラー
9F	シラカン	千歳緑色
8F	アラカン	常盤緑色
7F	ウリカエデ	刈安色
6F	シデコブシ	桜色
5F	サクラバハノキ	白緑色
4F	コバノミツバツツジ	コスモス色
3F	シラタマホシクサ	わずれなぐさ色
2F	タチツボスミレ	りんどう色
1F	スズカカンアオイ	桔梗色
B1F	トウカイコモウセンゴケ	中紅色

設計担当の方からの声

地域の未来を想い、自然を敬いデザインしました。



株式会社日本設計
医療施設設計部
主管
衣川涉さん

アートワークのコンセプトは「里山」。愛・地球博で注目を浴びた「海上の森」をはじめとする豊かな自然の姿を、地域の大切な病院の姿に重ねました。その海上の森に自生している植物をデザインモチーフとし、フロアカラーにも反映させ、西棟とリンクさせています。個室のトイレ配置などについてはモデルルームにより、明るさなどを丁寧に検証しながら、急性期病院としての機能を果たそうとしました。

使いやすく、メンテナンス性に優れて衛生的で快適なトイレ。

外来のトイレは、左右勝手の手すりを分散配置し、明確に分かるようにサイン表示。視認性を高めるため、手すりと壁面の色にコントラストを付けています。衛生陶器とライニングの色も同様です。

また、病棟の共用トイレはすべて車いすで利用できる分散型トイレとし、左右勝手の手すりをペアで配置。病棟のトイレの1カ所には、収納式の大型ベッドも設置しています。なお、便器は原則壁掛けタイプとし、巾木は床材を巻き上げて清掃性を高めています。



3Fの産婦人科の外来ロビー。インテリアや床などのカラーがすべてコーディネートされている。



3Fの車いすトイレにはL型手すりや背もたれなどを設置。大便器は清掃のしやすい壁掛けタイプを採用している。



5F小児病棟は、東側を「森のエリア」、西側を「水辺のエリア」とし、子どもたちの心を和ませるワークが施されている。

小児病棟は子どもたちの不安な気持ちを和らげる、明るさと楽しさのある療養空間にしています。



小児病棟のキッズトイレ。なお、小児科外来近くには子ども用便器を併設したファミリートイレを設置している。

看護第一部長さんからの声

清掃しやすく清潔に保てるトイレです。



看護第一部長
感染制御部
感染制御室長
須川真規子さん

清掃のしやすさを考え、患者さんが使用するエリアのトイレは原則壁掛けタイプに。汚れた時にすぐ拭ける空間です。またトイレ使用の前後にアルコール消毒薬をペーパーにつけて便座を消毒していただくよう、患者さんからご協力も得ています。

医療安全管理室長さんからの声

トイレは患者さんの満足を高めます。



医療安全管理室
室長
伊藤智弘さん

毎日使うトイレの充実は、病院として大切なことだったと改めて感じます。きれいなトイレは患者さんの満足度を高め、手すりなど設備面の充実で転倒転落のリスクも減少しました。介助しやすい環境は、スタッフの満足度も高めています。

経営戦略室の方からの声

感染予防やにおいにも配慮しました。



経営戦略室
室長補佐
酒井健志さん

設計の段階から感染対策に配慮し、今まで問題があった部分を一気に解決しようと考えました。病棟と外来でアンケートを取っていますが、以前はトイレについての要望を多数いただいていた。おいの問題なども解消されてうれしく思います。



8Fの個室。部屋の中央には使いやすい洗面器も用意されている。床材にはノーワックスタイプで重歩行対応の単層シートを採用している。



個室内のトイレには、壁掛けタイプの大便器、はね上げ手すり、L型手すりを設置。アクセントクロスによって壁と手すりのコントラストを付けている。

早期離床を促すトイレとベッドの配置。

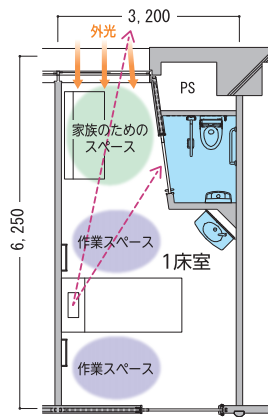
急性期病棟として、個室はベッド搬送と看守りやすさを重視。ベッドを廊下側、トイレを窓側に配置しています。窓からの採光を室内に有効に拡げるために、トイレ部分の壁を斜めにするという工夫を施し、ベッドからはトイレの扉が見えるためベッドとトイレの距離感が縮まり、早期離床を促します。なお、病室の出入口は、ベッド搬送や車いすの出入りに配慮し、有効幅1.3mを確保しています。



5Fのダイニングには使いやすい手洗器を設置。



個室のトイレは窓側に設けられ、十分な広さを確保している。



個室 平面図



泌尿器科の外来に設けられた、尿流量測定装置の付いたリラックスできるトイレ。



1F外来の多機能トイレには、子ども連れやオストメイトのための設備などが設けられている。

設けられている設備が一目で分かる多機能トイレのサイン。



多機能トイレには、フィッティングボードも設置。収納式の多目的シートは、ストーマ装置の処理時や、患者さんの急な不調時などにも使われている。



血液内科病棟の看護師さんからの声

夜間の利用でも安心していただけます。



血液内科病棟
看護師
山田みさきさん

トイレがバリアフリーになり、車いすや足の不自由な患者さんも入りやすくなりました。清掃もしやすく、感染予防の面でも良い環境になったと感じます。また、明るく温かみのある色なので、夜間の利用などでも安心していただけると思います。

整形外科病棟の看護師さんからの声

左右勝手に骨折部位に対応できます。



整形外科病棟
看護師
清水達也さん

以前はトイレ待ちで並んでいる場面もありましたが、車いすトイレが増えて動線が短くなり、個室のトイレも充実して大きく改善されました。左右勝手を選べるので、骨折の部位に合わせて使いやすいトイレを選択できるのも良かったと感じます。

神経内科病棟の看護師さんからの声

ポータブルトイレを減らしました。



神経内科病棟
看護師
北川好美さん

看護師が2~3人で便座に移乗してもらうこともありますが、トイレが広くなって介助しやすくなりました。病室の前のトイレをすぐに使えるので、以前のようにポータブルトイレが必要なくなり、衛生的ですし、患者さんの気分も大きく変わりました。